ヒマラヤ No.119

● 特 集 続発するヒマラヤ事故



1981 OCT

日本ヒマラヤ協会



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

- 岩と氷の中に眠る

マナスル三山の秘境「ミミ・ポカリ」を探る旅

'81~'82 HAJ正月トレッキングセミナー

コバルトブルーの空の下、名峰ヒマルチュリの 大岩壁群と氷壁に囲まれてひっそりと眠るマナス ル山群の秘境「ミミ・ポカリ」を訪ねてみません か? HAJ だからこそできる豊かな旅!! ヒマラヤへあこがれたら一度は訪れたいネバー ル、行くたびごとに新たな感動を与えてくれるネ バール。今回の正月セミナートレッキングは、中 部ネバール・マナスル山群を企画してみました。 時のへだたりを感じさせる村々のただずまい。 そこに住むグルン族やチベッタンの素朴な生活。 そしてヒマルチュリへ続く長い稜線。その中に、 ひっそりと眠るコバルトブルーの氷河湖、虚空に サキルでを写像群。それらのひとつびとの

抜きんでる巨峰群。それらのひとつひとつが限りない深さと豊かさを感じさせてくれます。

皆様お誘いあわせの上、ぜひ御参加下さい。

日 時 1981年12月26日(土)~1月17日(日) 成田~成田=23日間(日数のない 方は途中下山も可能)

地 域 中部ネパール・マナスル三山周辺 (カトマンズ〜ドムレ〜ボテオーラ 〜ラブシボト〜ミミ・ポカリ(標 高約4,300m)〜クディ〜カトマン ズ・ミミポカリまでは約1週間です)

人 員 15名

講 師 五百沢智也氏

費 用 36万円(航空賃・ネパール滞在費・ トレッキング費の全てを含みます)

申 込 HAJ事務局

締 切 9月30日まで

このトレッキングの旅行手続は、㈱西遊旅行が担当します。旅行業代理店業1976号

表紙写真

ザンスカールへの入口であるペニカルは回教徒の村である。折しもやって来たのは 結婚式の行列。野の花に飾られた花婿は18才。姿を見せない花嫁は17才。村人 たちも手に手に野の花で作られた花束を持っている。やがて広場に円い人の輪がで き、その中で剣の舞いか始まった。 (提供:中根淑子)

ヒマラヤ No. 119

1. ヒマラヤ放談 -----

八木原 圀 明

- 3. ヒマラヤニュース (地域・トピックス)
- 4. 特 集 続発するヒマラヤ登山事故を考える
- 8. ヒマラヤの人とつきあう-

沖

允 人

- 12. H.C. SARIN氏 (I.M. F総裁) 来日す!!
- 13. 第12回(仙台)ヒマラヤ会議報告
- **14.** ネパールヒマラヤ解禁 122座(地域別・高度別・条件別)一覧表
- 18. 連 載

ヒマラヤ閑話 44

水 野

勉

- 20. ヒマラヤの報告書紹介 ①
- 22. HAJ・カンチェンジュンガ報告会・ヒマラヤの発送について・転居届の提出を!!
- 24. 寸感・事務局日誌

※都合によりトレッキング許可で登れる山は休載させていただきます。

ヒマラヤ放談

1971年から11年間で訪ネ11回。ダウラギリ男との異名をとるほど、ネパール・ヒマラヤ特にダウラギリ山群に造詣の深い八木原圀明氏が、本年はHAJのカンチ縦走隊に登攀リーダーとして参加し、コシ河を越えてヤルンカンのピークに立ってこのほど帰国された。

● ダウラギリに魅せられて

――此の度はヤルンカンの登頂お芽出度う御座居ます。 8500 m峰のサミッターとしてのご感想はいかがですか。

八木原 8505 mの高峰に足跡を印した事で実力がものを云うこの世界では今後も組織をまとめながらヒマラヤ登山を続けると云う意味ではやり易くなりました。

――数多い訪ネの中で今回は初めてコシ河を越えて東ネパールへ足をのばされましたが東ネパールの印象はいかがでしたか。

八木原 ポーターの性格が少しばかり違うように 思いました。只、往路のキャラバンであった様な ポーターのククリー騒動は中央部ネバールのポー ターにも見られることであり、そう違いはないよ うに思います。

八木原 まだ少し冷えたりすると痛いが日常生活では走ることが出来ないぐらいでそう支障はありません。

――ところでダウラギリ男と云われる八木原さんがヒマラヤを指向するようになったのはいつ頃からですか。

八木原 1969年からですね。 '78年に死んだ小



八木原 圀明

暮さん等が、69年6月に群馬県海外登山研究会を作り、その年の10月に誘われて入ったのがきっかけです。22才の頃で研究会の方は県内岳人で海外登山に興味を持つ者なら誰れでも入れました。研究には実践目標が必要だったので候補の中からダウラギリ IV峰に目標を絞って計画を煮詰めていきました。

――これまでヒマラヤに赴いた回数は何回ぐらいになりますか。

八木原 '71 年にダウラ № 峰の偵察に出かけたのが最初で其の后、'72 年群馬岳連隊のダウラ № 峰、'75年カモシカ同人のダウラ № 峰、'78 年群馬岳連隊でダウラ I 峰、'81 年 H A J 隊のカンチェンジュンガ隊と云ったところでその他トレッキング等で6回ほど出かけてますのでこの11年の間、毎年1回の割で出かけていることになりましょうか。

――いやはやダウラギリ男の所以が判りました。 ところで来秋にはまたダウラギリI峰のベアール ートに出かけられるそうですが

八木原 これはカモシカ同人としてダウラギリ山群全山登頂の一環として計画されました。カモシカ同人は、75年のダウラ N峰、、79年のダウラⅡ・Ⅲ・V峰縦走とピークを落してきており主峰も登らにゃなるまいとなったわけです。主峰さえ

片づけておけばあとのチューレン・ヒマールの方はカペ・コーラへ入って一気に片づけられるだろうと云うわけです。

――ペアー・ルートに向けての抱負は?

八木原 ペアー・ルートは過去9隊が挑戦していずれも敗退している難ルートですが今度は凍傷なしで是非とも頂上に立ちたいものです。例の難所を1パーティが突破すれば18人中10人ぐらいは登頂出来るものと踏んでます。

――こうまでも八木原さんを引きつけるダウラギ リの魅力とは何でしょうか

八木原 ウーン何んと云うか、最初に手がけた山 で度々出かけているうち愛着を持ちはじめている とでも云うのでしょうか。

● 家庭の理解で……

――八木原さんの場合、ポストモンスーン期の遠 征が多いですが、これは意図的にですか

八木原 勿論です。難かしいルートや岩のルート は秋の方が雪を利用できるし、気温も高く登頂の 可能性が多いからです。

――八木原さんは現在、群馬県岳連の海外登山委員長、日山協の海外登山地区委員などをやられておりますが岳連の海外委員長としての今後の抱負や計画をお聞かせ下さい。

八木原 当面、,84~,85の冬に岳連の第三次 ヒマラヤ隊としてネパールの8,000 m峰のバリエ ーションを進めています。抱負としましては世界 のヒマラヤ登山界の中である程度評価される高い レベルでの登山を岳連として目指して行きたいと 思っています。そのためには人的には来年のダウ ラ主峰に群馬から10人が参加するのである程度の メドはつくだろうと考えてます。岳連レベルとし ては若いメンバーのヒマラヤ経験者を育成するこ とが急務だと考えてます。

――群馬県の海外登山研究会ではどのようなこと をやられているのでしょうか。

八木原 年1回の海外登山技術研究会で有識者を 混じえて高所順応等を中心に高所登山の基礎的な 勉強を続けています。個々では持ち上がりにくい 8,000m峰以上等の大きな登山は岳連隊として実 行していきたいと思っており、その岳連隊のベースとしての役割も果しています。

――これだけ数多く遠征に出かけるには家族の理解が無ければ難かしいと思いますが、奥さんの理解と操従法を一言。

八木原 操従法なんてありませんネ、理解只一つ。 操従は出来ません。操従されてるだけです。

――どうやって理解を得ているのですか。

八木原 本人も山登りしていたので亭主に好きな ことをやらせることに喜びを感じているようですよ。 ——日項の家庭サービスは?

八木原 家事万端

一トの開拓など活躍されてますが八木原さんが山に憑かれるようになったのはいつ頃からですか。 八木原 中学の頃にスキースケート山岳部に入っていて県内の近くの山に連れて貰っていたのがそもそもの始りで其の后、高校山岳部に入ってから沢登りや岩登り、冬山へと行くようになりました。 一憑かれるようになったのは?

八木原 高校卒業后、東京へ出てから郷里に戻る 事情があってその頃から山にいりびたりになりま した。大学受験の失敗と云うコンプレックスが一 番の引きがねになったように思います。

――東京オリンピックの時は聖火ランナーも務めたと聞いてますが学生時代のスポーツは何をやられてましたか。

八木原 学生時代は山以外には特別にやっていませんでした。生徒会長、山岳部の主将だったのが認められたのでしょう。前橋市内から県庁までの県内のメインコースを幸運にも走ることが出来ました。

――ヒマラヤ遠征の苦労話しかエピソードを一つ お聞かせ下さい。

八木原 ,71年の頃は県内のヒマラヤ登山経験 者が少なかったので計画を推し進めるのもなかな か大変でした。そこで資料、資料と云うことでい ろんな本を買い集めるようになったものです。

――これまで読んだ本の中で感銘を受けた本には どんなものがありますか。

八木原 やはり陳腐ながら「処女峰アンナプルナ」 ですかね、最後の壮絶な場面のドラマがなんとも 云えません。

----キャラバン中は良く本を読んでおりましたが

八木原 ヒマラヤでは夜遅く迄酒を飲むこともな いので本を良く読める環境だからではないでしょ うかっ

---読書や文を書くのは好きなんですか。

八木原 読書は好きと云うほどではありませんが 文を書くのは好きな方です。

――なるほどその辺のところに"動く広辞苑"と 云われる所以がありそうですね。文を書くことを 好む人であれば当然、他人の本も気になることで

しょうがその辺はどうですか。

八木原 編集後記は興味深く読みます。編集後記 にこそ本を作った人の姿勢が現われていると思う のです。

――なるほど、本誌寸感も気をつけて書くことに しましょう。本日は、どうもありがとうございま

(インタビュー・構成 尾形 好雄)

HIMALAYA NEWS

地域ニュース

《ネパール》

在ネパール大使交代

外務省は8月14日付で在ネパール特命全権大 使に西沢憲一郎氏を任命した。土屋大使との交代 は、9月中に行なわれる予定。

《インド》

インドヒマラヤの外国隊

本年インドヒマラヤに入山予定の外国隊は67 隊である。地域別には下記のとおりである。

カシミール

25隊

ヒマチャルプラディッシュ 6隊

ウッタルプラディッシュ

33隊

インドとの合同隊

ナンダデヴィ主峰には、この秋チェコスロヴァ キァ隊 13 名が北面から入山の予定である。

第二回 日山協海外登山遭難対策研修会

日 時 1981年9月26日(土)13:30~27日(日)14:30

場 所 大学セミナーハウス 電(0426)76-8511 東京都八王子市下柚木1987

申 込 日山協事務局

参加費 10,000円(宿泊費・資料代含む)

内 容 A「海外登山における遭難事故の実際」 特にその実態を分析し、最近多くなり つつある「クレバス」事故と「凍傷」 にスポットを当て、併わせて「高所順 応」の基礎知識の講義を行う。

- B「漕難事故の事後処理」 特にヘリコプター出動手続を中心に現 地での処理の手続きについて。
- C「高所登山とトレーニング」
- D「最新のヒマラヤ情報」

カンチェンジュンガ報告書発刊

5月に終了したカンチェンジュンガ縦走登山 の概要をまとめた「日本カンチェンジュンガ学

術遠征報告」がHAJより発刊された。B5版 24 頁、希望される方はHAJ事務局へ実費 670 円と共に申込み下さい。尚、9月30日の報告会 で配布予定。

続発するヒマラヤ登山事故を考える

HAJ高所登山委員会

今年はヒマラヤ各地での死亡事故が相ついだ。この秋の登山を控える時期に6,000 m峰以上へ向った 隊の中から既に16名の死者を出している。これは年間を通して最多死者を出した1978年の13名を上 回わるものである。また、今年の特徴は、全ての地域で発生し、発生原因も雪崩、転滑落、高山病と主要 な三つの要因が全て出ていることである。

HA J 高所登山委員会では、急拠、この問題について検討してみた。

1. 驚くべき死亡率 2. 本年の事故

始めに、1970年から1980年までの11年間 に 6,000 m以上の峰に向かった日本人は、345隊 2,947人。このうち 47隊 77名が死亡している。 これは、2.6%の死亡率となり、7隊に一隊の割・ で死亡事故が発生し、実に38人に一人が死亡し ているのである。

日本国内の山岳遭難の死亡率で最も高い数値を 示しているのは、「日山協・山岳遭難共済」に加 入しているデータで、1977年~1979年の3 年間の合計 32,085 名中 53名の死亡 (死亡率 0.17%) がある。これは、600人に一人の死亡で ある。又、魔の山として知られる谷川岳では入山 者3,300人に一人が死亡している。

これらの数値をみても、ヒマラヤにおける高所 登山の死亡率がいかに高く、異常なものであるか がうかがわれる。

日本の山とは全く異なる高所に竣立するヒマラ ヤの峰々に向かうには、国内の登山よりも更に、 入念な準備と研究・調査を行い、かつ、現地でも 細心の注意を払って行動しているものと思われる が、現実の数字は驚くべき事実を示しているので ある。

A 雪崩が原因

PK ガッシャブルムN(7,980m)3名

B 転滑落が原因

NH エベレスト (8,848m) l名

(7,556m)8名 CH ミニャコンカ

C 高山病が原因

IH クン (7,077m)1名

D 原因不明

CH コングルー (7,719m)3名

※PK=パキスタン・カラコルム

NH=ネパール・ヒマラヤ

IH=インド・ヒマラヤ

CH=中国・ヒマラヤ

これは、あくまでも6,000 m以上のピークに向 かった隊のみであり、いわゆる高所での事故は、 この他にも4名の死亡者を出しており、更に言え ば、死に至らない事数は、高山病、クレバス転落 事故、雪崩と、相当数の負傷者を出している。

3. 事故原因の検討

前掲資料のとおり、事故の原因の半分は雪崩であるが、これは雪崩事故が一度発生すると、大量 遭難となるケースが多いことを物語っている。

又、高山病死が意外と少ないことに不審を抱かれるとも思うが、これは、死亡の原因が高山病であることが完全に判ったものだけに絞っているからである。結果的には転滑落死であるが、その直接の原因が高山病による場合も相当数あると推測されるが、判定が困難なため、転滑落としてある。

A. 雪崩事故

ヒマラヤ登山では「スケールの大きさ」が時として判断を狂わせる大きな原因となる。雪崩事故については、国内の冬山の経験で充分に対処できる筈であるが、「まさか、あれからは落ちないだろう」「落ちてもことまでは到達しないだろう」というスケールの見誤まりによって被害を大きくしているケースがある。

これは特に雪崩事故がともすれば雪崩による「埋没」との観念があるからでもあるが、これらの被害では、ブロック崩壊をはじめとして、雪崩による「爆風」によって人間やテントが吹き飛ばされているケースが多くなってきており、これらのことを頭に入れて、キャンブ配置や、ルート設定を行うことが必要である。

又、一部には雪崩に対して全く無防備の状態でルート設定を行ったがために被害にあっている隊がある。これらは、日本での冬山の経験すら満足にないか或いは久しく冬山から遠ざかっていたに違いない。このような隊が被害にあうのは、出発前からわかり切っていることで論外と云えよう。

気象的な面からはどうか。昨年オーブンされ、 今年は日本隊も殺到した中国の場合、気象的な面 での情報はあまりないと思われる。「激変しやす い天候」という表現が幾つかの隊の報告に見受け られる程度であった。広大な中国の中でオーブン されている地域も東西南北にわたっており、今後 の隊のためにも本年の各隊の報告の中に気象面を 是非盛り込んでもらいたいものである。

B. 高山病事故

ヒマラヤ登山の中で高所順応の占める割合が大 きいことは古くから知られており、これだけの情 報があるにも拘わらず、死亡事故につながってい るのは何故であろうか。

一つには、順応の基礎的な知識を隊の中の限られた一部のメンバーのみが知っており、他の隊員は全く勉強していないケースが見受けられる。順応は、よく言われるように、ただローティションを組んでキャンプ間の上下運動をしていれば、でき上がるものでもない。隊員個々の身体的なものや精神的なことも大きく作用している筈であり、本人が順応に果す役割こそ大である。従って、その基礎的な知識は、高所登山に向かう各隊員が知っておく最低の義務ではなかろうか。

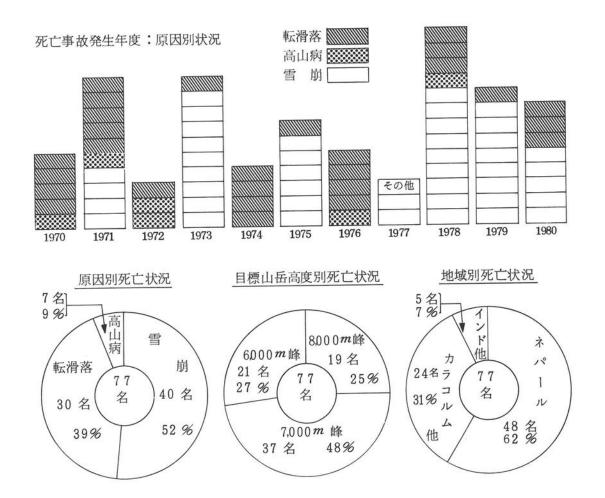
もう一方では、隊のローティションを中心に戦術を組むメンバー(当然隊の中心メンバーがその任に当たるだろう)が、高所登山を良く理解していない場合がある。想定されるローティションの崩れや悪天候によって、「荷が上がらない=予定のアタック態勢にない」にも拘わらず、アタック隊を出すケースである。アタック態勢が整っていないのであるから当然、アタック隊員には相当の負荷がかかる。例えば、それがテントや食糧の不足であれば、高所での充分なる睡眠(最も重要なことである)もとれないし、キャンプの位置が予定より下であれば、前途に対する不安を引き起すことになる。

賭は、アタック態勢が整ってからでも、なかなかできるものではないし、ましてや、この状態を賭と考えていないとしたら、あまりにも山に対して不遜ではないか?

C。 転滑落事故

ヒマラヤ登山での転滑落事故は、前述したとおり高山病との関連が非常に多いと想定される。技術的なミスによる転滑落は少ないのであるが、例外としては、「クレバス転落」事故がある。これは最近特に多発している。ヒドンクレバスの恐わさを知らず、国内ではアンザイレンをして歩く習慣のない日本隊は今後との対策を充分に行う必要

ヒマラヤ事故の実態(1970年から11年間)



1970年~1981年(11年間)の日本隊死亡事故集計表

(6,000m 以上のピーク)

地	域	ネ	18	-	ル	パキスタン ・アフガニスタン			ン	イン	インド・ソ連・中国		計				
目標山	岳高度	8,000 加峰	7,000 加峰	6,000 加峰	計	8,000 加峰	7,000 加峰	6,000 加峰	計	8,000 加峰	7,000 加峰	6,000 加峰	計	8,000 加峰	7,000 加峰	6,000 加峰	計
	隊数	22	77	41	140	5	66	46	117	1	19	68	88	28	162	155	345
入山	人数	327	705	284	1316	81	573	314	968	26	154	483	663	434	1432	1081	2947
	隊数	8	13	7	28	1	11	2	14	1	0	4	5	10	24	13	47
死 亡	人数	15	23	10	48	3	14	7	24	1	0	4	5	19	37	21	77
死 τ	上率	4.3	3.3	3.5	3.6	3.7	2.4	2.2	2.5	3.8	0 %	0.8	0.8	4.4	2.6	1.9	2.6

ヒマラヤ登山以外の死亡事故の状況

1 谷川岳 (1974年~1979年=6年間)

摘要 年	登山者数	死亡 者数	死亡率
1974	38,566名	9名	0.02%
1975	38,367	13	0.03
1976	45,583	12	0.03
1977	49,130	7	0.01
1978	33,600	11	0.03
1979	32,156	20	0.06
計	237,402	72	0.03

※ 3,300 名に1名

谷川岳登山指導センター調

2 日出協·山岳遭難共済 (1977年~1979年=3年間)

摘要年	加入者数	死亡 者数	死亡率
1977	8,154名	18名	0.22%
1978	12,388	18	0.15
1979	11,543	17	0.15
計	32,085	53	0.17

※ 600 名に1名

大正海上火災 調

がある。例えアンザイレンをしていても落ちて止めることができるか?止めたらローブを固定する ことができるか?脱出の技術を知っていて現場で それをできるか?等々問題は山積みしているのである。

4. おわりに

登山者が増加しているのだから事故も多い!! と 安閑とはしていられないし、充分に研修を積み慎 重に行動しても事故は起きる場合もある。

今年の中では、そのようなケースよりも、全く 初歩的なミスで事故につながったと指摘されても やむを得ない隊が多かった。その原因の一端には 日本国内の組織登山者達の中に現われている一つ の現象「山岳会ばなれ」があることも見逃がせな いだろう。

昭和40年半端ごろから急激に増加した「山岳会 ばなれ」は、特に岩登りを中心とした若年層から 始まり、その結果は結局は「山岳会」となる「同

3 スポーツ安全協会傷害保険(第二種) (1973年、1974年、1977年=3年間)

摘要年	加入者数	死亡 者数	死亡率
1973	45,494名	9名	0.019%
1974	62,158	4	0.006
1977	89,175	3	0.003
計	196,827	16	0.008

※ 12,300 名に1名

スポーツ安全協会 調

4 運転免許保有者の運転中の死亡 (1978年~1979年=2年間)

摘要年	免許保有者数	運転中の 死亡者数	死亡率
1978	39,174,099名	4,744名	0.012%
1979	41,042,876	4,533	0.011
計	80,216,975	9,277	0.012

※ 8,600名に1名

S55年·交通安全白書 調

ヒマラヤ登山 2.6 %

人」風の集団の出現となり、この傾向は続いている。

この結果はどうか?それまでの「山岳会」では3年なり5年なりの年月の中で「良し悪し」は別として、山に対する全般的な知識の修得が可能であったと考えられる。しかし、「同人風」の集団ではこのような下積みの期間はなかなかとりづらく、比較的自由な山行の中で、好みに合った山行を行う方向にあると考えられるのである。

ヒマラヤの高所登山では、山の全般的な能力を 要求される場合が多い。

楽しいヒマラヤ登山を目ざしても事故が起きれば、はかり知れない悲しみが訪れる。「楽しい登山」とは「手軽るな(楽な)登山」という意味ではなく、周到に準備され、確実に実行された結果のみにもたらされる登山でありたい。

(文責: 山森欣一)

ヒマラヤの人とつきあう

沖 允人

■ 評価はゆれ動く

人の評価などということは、できれはしないですませたいものである。それでも、ときには評価することが必要になることがある。そんなときに、先入観というフィルターがかかっていると判断に狂いが生じることが多い。それに、この先入観というフィルターは簡単にとりはずせないというところがまたやっかいである。

誰かから「インド人は悪い人間ばかりだ」という話を聞き、それを信じこんだ人は、インド人に初めて会う前から、もう、インド人に対する一定の悪い評価を自分の心の中に作ってしまい、実際にインド人に会ったときにはすでにでき上っている歪んだ物指でインド人を測ろうとしてしまるこの先入観やイメージといったものは意外と根強く人の心に住みついてしまいなかなか何も知らなかった元の状態に戻すことはむつかしいようである。

数年前の夏、カシミール登山隊の先発隊員としてK君を送り出したことがある。そして不慣れな彼のために私と親しくしていたインド人のH氏を紹介しておいた。ところがカシミールに着いてたまたま出会ったある日本人から「H氏は悪がしこい人間だから注意した方がよい。こんなこともあった。あんな悪いことをしている」と言われたらしい。もちろんH氏は神様のような人ではないが、平均的日本人よりは善人だと私は思っていた。

登山を終って帰国するまでH氏に大変お世話になり、不愉快なことは何一つなかった。しかし、 K君のH氏への不信感はとうとうなくならなかっ たようである。ひよっとすると数年たった今でも そうであるかも知れない。

個人の評価はともすれば、その国の人全体の評

価につながって行くものである。たまたま出会った一人の人の印象でその国の人たち全体を評価することになる。

どこの国にも悪い人もいれば良い人間もいる。 特に民族全体に関しては性急に評価をしてしまう ことはできるだけさけ、じっくり観察し続けるこ とが大切であろう。たまたまドロボーに出合った からといって、その国の人全部が、ドロボーであ るはずはないが、おうおうにしてこの種の誤解は 生じ易い。

また、同一人物であっても、ある人から見れば気にくわない人間に見えることもあるし別の人の判断では立派な人間として評価されることもある。その人自身の善悪の判断が基準もゆれ動いていることもある。不分に観察できないで評価することもある。不安定な人間を不正確な観察方法で眺めているのだから無理もないことである。したがって、当然のことながら評価は、ある幅の間を常にゆれ動くと考えておく方がよい。

ある時点でその人に下した評価が、時がたつと とんでもない間違いだったと気付くことも多い。 しかし、それをあまり気にしていては人の評価は できないことになるが、とにかく、どうしても評価を下さなければならない場合、現在のその評価 は将来変り得ると考えておくことであろう。

■ 知識と判断

ジャック・デュピィは彼の著書「ヒマラヤ」で ヒマラヤはビルマ奥地から始まり、ネパールとカ ラコルム、パミール、チベットを含みイランあたり

までの山岳と山麓を含んでいるとしている。これ らヒマラヤの半分以上の国々はいわゆる発達途上 国である。中でもヒマラヤの高地に住む人々は原 始的といってよいほどの生活を送っている。物質 文明にどっぷりとひたって暮している日本人など から見れば、無知、貧困、不潔などという印象が 強烈である。紀行文や登山報告書などにはそれら のことを強調して書かれていることが多い。だか ら、はじめからそのような態度でヒマラヤ高地の 人たちと接することが多い。上から見下すという 態度である。これは劣等感のうらがえしであると いってもよい。このような見方に立てばヨーロッ バ人やアメリカ人に対しては日本人より上位とい う見方をしてしまう。民族に上下はない。あるの は国籍や民族をはなれた個人と個人の間にある人 格の差である。

人類学者や、ヒマラヤ研究者の書物は、得ることの多い参考書となるが、しかし、こと人間の評価に関してはかえって固定した先入観を読者に与える場合がある。それはこれらの多くの本は調べる側に立って書かれ、発表され、それによって一定の評価を作り上げることになってしまっていることが多いからである。大学者といえどもその国で生れ育っていない限り、分らない部分は多く、いきおい一面的にならざるを得ないであろう。

名著といわれる本でさえも、ある部分ではヒマラヤの人たちの現実の姿を歪んだ形で紹介していることもある。ヒマラヤの人たちは多くの場合、勝手に調査され、判断され、評価され、そして、それに対する批評や反駁もできないでいる。いや、そんな評価がなされているということさえ知らずに生活を続けている。このことを考えず一方的に調査研究した結果をうのみにする危険はさけた方がよい。

もちろん、ヒマラヤの国や人に対する知識は豊富なほどよいであろう。しかし、その知識、特に他人の頭をとおってきた他人の知識に全面的にたよるのはよくない。極力、先入観を排し、頭の中を空にしてヒマラヤの人たちと接し、そして、接することをエネルギーとして自分自身でヒマラヤの人のことを理解することこそ大切なことであろう。

■ 幅広いつき合い

ヒマラヤ遠征はもちろん、ちょっとした調査旅行であっても実に種々な階級や職業の人といろいろな方法でつき合うことになる。政府の役人、学者、研究者、軍人、店主、料理人、シェルバ、ボーター、乞食、それに、個人対個人、グルーブとして、家族同志でとつきあい方もいろいろである。

独創的な遠征を企画し、進めて行こうと思う人 は常に幅広いつき合いをするよう心がけるべきで あろう。それらの人たちはいつか役に立ってくれ る。ことがある。囲碁でいう「捨て石」、将棋の 「持ちゴマ」というような役目をはたしてくれる。 人間一人ではたいしたことはできない。多くの人 の協力を得て大きいこともやれる。そのようなと きに生きてくるのが「捨て石」であり、「持ちゴ マ」であろう。相手によって態度、言葉使い、服 装なども変えた方がよいが、いずれにしても考え 方や習慣の違う人たちとのつき合いはお互、理解 しあうまでにはかなりの忍耐力が必要である。思 考の柔軟性とともに、意外と体力も必要である。 ときには長時間の議論になることもあり、あまり 充分でない語学力でやりあうような場合、精神力 というか気力というか、知力と体力のバイタリテ ィがないとうまくいかない。体のコンディション が悪いと、ついイライラしたり、おこりっぽくな ってしまう。発展途上国のインテリには議論好き な人が多い。登山隊につくりェゾンオフィサーもそ の部類と考えてよいであろう。そういうインテリ につき合うだけの技量がとちらにないと、つい壁 ができてしまう。話があわない場合は発想の転換 を試みるべきであろう。一つの考え方しかできな い人はどうしても人間関係の壁にぶつかってしま うものである。とにかく貧乏人だからといって始 めから馬鹿にした態度で接したり、偉い人だから といってものおじすることは、そのことからすで につき合いは失敗になりそうだと予想される。

■ 相手の立場を考える

人とつき合う基本的な態度は、まず相手の立場 を尊重することであろう。日本のお役所やそれに 類する窓口では、時にいわゆる役人風を吹かされ 不愉快な思いをすることもある。しかし、それは 相手の立場や都合もあることで、その点を理解し ないとエゴイストと呼ばれてもしかたがないであ ろう。

ある人がパキスタンの登山を計画し、以前その山へ行ったことのある人に問合せの手紙を出した。もちろん、返信用切手も入れ、宛名を書いた封筒まで入れて……。しかし、その人からは三カ月たっても何の返事ももらえなかった。もう一度催促したら「出張で富山へ来ているので、富山へ来てもらえればご質問にお答えします」という返事が届いた。そこで、質問した人は腹が立ったという話を聞いたことがある。

たしかに、相手の人もあまり親切とはいえないが、しかし、問合せの手紙に必ず返事を出さなければいけないという義務はない。あくまでも好意で返事を出すのであって、返事を出す出さない、そして、返事の内容は全くその人の自由である。返事がおくれたからといって腹を立てる方がどうかしている。

相手にも事情があったのだと考えるべきであろう。返事はすぐに出す。頼まれたらすぐに処理するというのが理想であるが、そうそう理想通りにできないこともある。特に職業として山のことをやっていないという場合、やはり山のことは第二義的になってしまうのは、やむを得ないことであるう。

ただし、相手の立場を考えすぎて計画がまるき りつぶれてしまうほどの譲歩や妥協はやめた方が よい。計画を実現するためのつき合いであること を忘れてはならない。

雪に降られたネパールの田舎で一夜の宿を頼ん で冷く断われることもあろう。しかし、露天でね るのもヒマラヤを味わりのに悪くはないと考えれ ば気持もおさまるというものである。

■ 現地語

その国と人とのつき合いの基本ともなるべき現 地語の知識はもちろん多くあるにこしたことはな い。しかし、それも、その人の言語修得能力によ りけりで、中学、高校と何年か英語をやってきた のにもかかわらず、未だに英語はサッパリ駄目と いうような人は他の言語をやっても大同小異と思って間違いない。

努力を続ければ語学力はたしかに向上する。トレーニングを積めばそれまで乗り越せなかったオーバーハングもすいすいと越せるようになる。それと同じことが語学にもいえる。それはよく解っているのだが、そこまで努力を続けることができない人が多い。それに語学の修得はオーバーハングの乗越よりもより地道な長い期間の努力が必要である。語学のできない人は、そういう「努力をする能力」や意欲が少ないといえよう。そういう人は、いさぎょく現地語の修得はあきらめて別のことや本来の目的達成のための研究や修練に精を出したほうがよい。

買物、道を聞く、あいさつといった程度の現地 語は現地に行ってからカードなどにメモしておぼ えてもおそくはない。単純なことなら手まねでも 通じる。

一つや二つの現地語を憶えてもヒマラヤ全域で 通じる訳ではない。ヒンディー語がカシミールの 奥地やアッサムでは通じないのがその例である。

1951年に実施された国勢調査によればインドには 845 種類の言語と方言があり、公用語のヒンディ語は 44%の人しか理解できない。インド以外の国でも事情は似たりよったりである。だから言葉を憶えることよりも相手の気持を摑む、そういう「カン」をやしなうことのほうが重要である。顔の色、眼の動き、態度などから、相手の意図の半分以上は分るものである。

それでも言葉が不安という人は英語に重点をおくべきである。都会での仕事はたいてい英語で用がたせる。ヒマラヤ諸国では田舎でも英語の分る人は案外多い。また、たいていの国の辞書は英語のものが出版されているので、辞書も活用できる。

■ 人間と山

自分と他人、自分ともう一つの自分、そして人 と山との戦いからチームとしてのヒマラヤ登山す べてが始まるといってもよいであろう。チームで 登る登山の面白味は人とのつきあいにある。人と 山とのかかわりあいといってもよい。ケンカもし、口論もし、笑い泣き、そして友人ができる。かって登った山や谷を思い出すとき、そことともにあった人たちの顔が思い出されてくるものである。忘れられない人たち、もう一度会ってみたい人たち、良かったか悪かったかは別として、ヒマラヤへひきつけてやまないものは、そういった人と山とのハーモニーであろう。

ダウラギリの北麓をキャラバン中、食料が欠乏して困ったとき、種に使うために大切にとってあったジャガイモを分けてくれた村長さん、自分たちのベットをあけてニルピーで泊めてくれたシッキムの茶屋のオバサン、スワートでバスを案内してとうとうかなり遠くの停留所までついてきて、お礼も受けとらずに帰っていった青年、ヒマラヤ登山で雪崩にまき込まれて死んだシェルバ、キャラバン中に馬が川へ落ちて死に、見舞金をやったら目をしょぼしょぼさせていた馬方……。みんなもう一度会ってみたい。そういう人たちとヒマラ

ヤの山の中で暮してみたい。 そういう想いにかられる。

ヒマラヤは美しく気高い。それは登山家の目だ けにそううつるのではない。すべての人にヒマラ ヤは同じ姿で接してくれる。そして、ヒマラヤを 背景にして様々な人間が生きている。一生懸命生 きていっている。それも美しい。ケダルナートの 草原で一人のヒッピー風のアメリカ人が、やぶれ た布切のような服をまとい、くるくるとまいたじ ゅうたん一枚を肩に、何度も何度もケダルナート の雪山をふりかえりながら下っていった。ヒッピ 一の目に映ったヒマラヤの風景も、登山家が見た ヒマラヤも同じヒマラヤである。くみとる方の力 さえ大きければヒマラヤからの贈り物は無限に近 い。ヒマラヤと人間とのかかわりあいは、ヒマラ ヤが鉄の時代となったり、単独登山の対象となっ たりすることなどとは次元の違うところで、いつ までも深く続いていくであろう。

●お知らせ

ヒマラヤ118号で広報しました今秋のHAJ主催のネパールヒマラヤ登山隊のうち、「ブリクティ(6,720m)」峰隊は、8月に入りネパール側の情勢が厳しくなり今秋の入山は不可能となりました。このため集荷梱包も終了し隊貨発送の寸前でありましたが急拠これを中止し、隊を解散しました。

尚、同隊のうちから、中岡久隊員が、ランタン リ峰隊に参加することになりました。

●ランタン・リ峰隊出発

ランタン谷の最奥に君臨する未踏峰ランタン・リの初登頂を目ざすHAJ隊は、8月22日に先発2名、29日本隊3名、9月2日後発1名が成田を出発した。9月5日にはカトマンズを離れる予定。

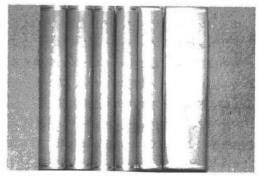
「ヒマラヤ」合本-

このほど「ヒマラヤ」の合本を製作致しました。 今回は $61\sim80$ 号、 $81\sim100$ 号の2分冊です。 既刊の $20\sim50$ 号、 $41\sim60$ 号も若干在庫があり ます。各冊ともその時代のヒマラヤの様々な話題 や情報、またじっくり読める記事などが豊富に掲載され、永久保存版として最適です。

- ① 20~50号 1971年 8月~1976年 1月
- ② 41~60号 1975年 3月~1976年11月
- ③ 61~80号 1976年12月~1978年 7月
- ④ 81~100号 1978年 8月~1981年 2月
- ⑤101~120号1980年4月~1981年11月

※⑤は年内に発行する予定です。申込みはHAJ

-ヒマラヤの情報が満載



事務局までお早めに!!

※定価格8,000円。送料実費(まとめて請求書を 同封しますので、到着後に振込んで下さい)

H.C.SARIN氏 (I.M.F総裁)来日す!!

本協会の招請を受けてインド登山財団 (I-MF) 総裁HCサリーン氏が8月22日(土)来日された。 1977年以来4年ぶり三度目の来日となった。氏の 横額や日本での足跡を紹介します。

◎ H.C. サリーン氏の略歴

1914年5月27日生 (67才) アラハバード大学卒業、ケンブリッヂ大学卒業 1938年 インド公共事業省に入り、以後各官庁 に勤務。民間航空省、防衛省の高官を 経て鉄鋼重工業相を勤めた。

1973年 アンドラブラディッシュ州知事 1974年~75年 グジャラット州知事 1980年~81年 アッサム州知事 現 在 通信省最高委員会委員長 1966年~現在 I・M・F 総裁

元 全インドスポーツ評議会委員
元 インドユースホステル協会最高評議員
元 インド政府青年活動委員会常任委員
現在 ネルーホッケートーナメント副会長
現在 ローンテニスクラブインド支部長
現在 国立ダージリン登山学校最高評議員
現在 国立ネルー登山学校最高評議員
セマラヤンクラブ名誉会員

サリーン氏は、テニス、バドミントン、クリケット、ホッケー、フットボールのそれぞれの競技において競技者としてもハイレベルの実績を残されており、スポーツ愛好者である。若かかりし頃の1937年にはユースホステル運動に関心を示し、デンマーク、ノルウェー、スェーデン等北欧諸国を自転車により2,000マイルを走破した。1977年にはヒラリーが主催したジェットボートEXP(オーシャン to スカイ)に最高年令者として参加した。現在は、ニューデリー郊外に自宅を新築して住われている。



◎ H.C.サリーン氏来日日誌

- 8月22日(士) 14:30 AI306 便にて来日 HAJ山倉、山森、JAC吉田、AI小野 出迎え。
- 8月23日(日) 11:00 台風15号の影響で飛行機、列車とも全面ストップのため、上野からタクシーで白河まで行き、ここから出迎えの稲田専務理事の車で仙台ヒマラヤ会議の会場へ(17:10到着)山倉・稲田・菊地同行。参加者と遅くまで酒宴
- 8月24日(月) 10:00 仙台から札幌へ飛ぶ。 市内見学の後、HAJ 北海道クループ 主 催の懇親会・夕食会にて、前出のオーシ ャン toスカイの 16%映画を上映した。 稲田同行。
- 8月25日(火) 13:30 予定の飛行機,が大幅 に遅れて札幌を出発、19:00からライオ 銀座特別室で山岳関係のみならず多彩な 参加者の下にHAJ主催の公式レセブショ ンを開催した。
- 8月26日(水) フリータイム。 19:00からJA C主催の歓迎会に出席
- 8月27日(木) フリータイム。都内観光。 夜はJAC 吉田宅のバーティに出席
- 8月28日**台** 14:30 HAJとのミーティン グ。夜はサヨナラパーティ。
- 8月29日(土) 10:00 西堀栄三郎氏と会食後 AI 301 便にて離日。HAJ稲田、菊地 JAC吉田見送り。

第12回(仙台)ヒマラヤ会議報告

(昭.56.8.23)

大型台風 15 号が房総半島に上陸し、そのまま 関東から東北地方にかけて縦断すると言った最悪 のコースを辿った為に空路も陸路も大混乱の天候 に見舞われた仙台ヒマラヤ会議は講師の会場到着 が遅れ、プログラムの変更。開会時間の遅延を余 儀なくされたが、午前 11時より世話人の八嶋氏 の司会で西郡評議員の挨拶のあと会議日程に入っ た。

会場の仙台郵便貯金会館には遠く酒田のHAJメンバーの方も多勢参集され35名の参加者となった。

内容のあらましは次のとおりである。

 $(11:00\sim11:30)$

「カンチェンジュンガ・トラバースの道」として西郡光昭氏よりカンチ・プロジェクトの発足から実践に至る過程の話しをして載く。

 $(11:30 \sim 12:00)$

カンチの報告として八嶋寛氏よりスライドを用いての説明あり。

 $(13:00\sim14:10)$

カンチェンジュンガの8ミリ映画上映。

この8ミリ映画は日本の壮行会シーンからB・C建設に至るアプローチ編とB・Cから頂上での縦走断念シーンまでの登攀編との2編にわかれ各々30分のもので、前夜遅くまでかかってナレーションを入れたと云う労作?であった。

 $(14:10\sim14:45)$

「カンチェンジュンガの戦術」についてカンチの登攀リーダー尾形好雄氏より報告。

B・Cまでのトランスポーテーション、先発隊・本隊メンバーのローテーション、酸素とタクティックス、アタック態勢前の完全休養などの話しであった。

 $(14:50\sim15:30)$

「カンチェンジュンガ遠征に参加して」地元縦

走隊員の八嶋氏より、鎌倉山から8,000m峰へと 云う夢を抱いてから8,000m峰のピークに立つま での過程を氏のこれまでの経験談をふまえながら 興味深く話され、また氏の担当した輸送・記録係 の報告もなされた。

 $(15:30\sim15:45)$

登山計画の発表として次の三隊の紹介があった。 酒田ヒマラヤ研究会のティリッチョ・ピーク計画 (1982年秋)

岳人長井クラブのランタン・リ計画(1981年秋) 仙台山岳会のトリスル計画(1981年秋)

 $(15:45\sim17:10)$

「最近の高所登山の傾向と戦術」として尾形好雄氏より、アルバインスタイル、小人数、単独、無酸素、冬期登山と云うより困難な目標に向かう傾向にある最近の高所登山の中で戦術としてはいかに高所順化に対して注意が払われて行なわれているかと云う点を強調されての話であった。またパッケージ登山等にみられる 6000 m峰の短期速攻登山については昨年のケダルナート・ドーム登山学校の経験から体力と順化についての話もあった。

 $(17:10\sim18:00)$

インドIMF総裁、サリーン氏の挨拶

台風のため東京から車を乗り継いで来られたサリーン氏は、17時過ぎに会場に到着され、閉会までのわずかな時間ではあったがインドヒマラヤの情勢や自然保護について挨拶された。

18時、稲田専務理事の挨拶で閉会、台風一過 の夕暮は午前中の天気が嘘の様に青空が広がって いた。

準備に携わって下さった仙台の世話人の皆様ほんとうに御苦労様でした。

ネパールヒマラヤ解禁122座 ^{地城別}

ネパール政府は、1981年4月新たなピークを追 加して、登山許可の対象とするオープンピークを 全面的に改定し発表した。現在解禁されている峰 122座について①地域別②高度別③条件別に整理 してみた。尚、地域はネ政府の発表した名称とし 明らかにミスプリントの高度については修正した。 又、条件の正確な表現についてはヒマラヤ115号 を参照にされたい。山名の前の※は未踏峰

たなピークを追	2.	Kangchenjunga	(8,598m)
ープンピークを	3.	Lhotse	(8,511m)
禁されている峰	4.	Kangchenjunga Central	(8,496m)
③条件別に整理	5.	Kangchenjunga South	(8,490m)
表した名称とし	6.	Makalu	(8,481m)
いては修正した。	7.	Yalungkang	(8,420m)
ヒマラヤ 115 号	8.	Lhotse Shar	(8,383m)
は未踏峰	9.	Dhaulagiri I	(8,167m)
	10.	Manasulu	(8,156m)
00m 峰(高度順)	11.	Cho Oyu	(8,153m)
(8,848 m)	12.	Annapurna I	(8,091m)

■ ネパールヒマラヤの8,000m 峰(高度順)

1. Sagarmatha

地域	高度区分	合同隊のみに許可される峰(A)	合同隊によって登頂された(B) 後に外国隊に許可される峰(B)	外国隊に許可される峰(C)	トレッキング許可の峰(D)
ジ	8,000 m峰	なし	なし	なし	なし
ンャナク・ヒ	7,000m峰	Jongsang Peak 7,173m Nepal Peak 7,168m ※ Omi Kang Ri7,022m	なし	なし	なし
7	6,000m峰	なし	なし	なし	なし
N	5,000 m峰	なし	なし	なし	なし
カンチェン	8,000m峰	なし	Kang ch en jung a Central 8,496m " South 8,490m	Kangchenjunga 8,598 Yalung Kang 8,420 <i>m</i>	m なし
ンジュンガ・ヒマ	7,000加峰	Tent Peak 7,365m	なし	Kangbachen 7,902m Jannu 7,710m	なし
	6,000m峰	なし	なし	なし	なし
マール	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
	8,000m峰	なし	なし	Makalu 8,481m	なし
クーンブ	7,000加峰	なし	なし	Makalu∐ 7,640m Baruntse 7,220m	なし
ハカマ	6,000 m峰	なし	なし	% Lobuche West6,145m	なし
ルーナル	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
クーンブ・ヒマ	8,000m峰	なし	Lhotse Shar 8,383m Cho Oyu 8,153m	_	なし
	7,000m峰	Gyachung Kang 7,922m		2m Pumori 7,145m	なし
ルル		in Keryolung 6681m € Keryolung 6681m		Numbur 6954m AmaDablam 6,856m	Mera Peak 6,431 ₇ KusumKangru 6,369 ₇

地域	高度区分	合同隊のみに許可される峰(A)	合同隊によって登頂された 後に外国隊に許可される峰(B)	外国隊に許可され	nる峰(C)	トレッキング許	可の峰(D)
クーン	6000m峰	÷.1	3.1	Kangteja Cho Polu	6,809m 6,734m	Kangde Island Peal	6,194 <i>m</i> 6,153 <i>m</i>
ブ・ヒマ		なし	なし	Tamserku Taboche **Cholatse	6,623m 6,541m 6440m	Lobu je	6,119m
ル	5,000m峰	なし	なし	なし		Mehra Peak Pokha lde	5,820m 5,806m
1	8,000加峰	なし	なし	なし		なし	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
ル	7000m峰	なし	なし	Gaur i Shank	ar7,150m	はなし	
リヒンマ・1	6,000m峰	なし	なし	i Kha tang Chobụ je €	6,853m 6,689m	Pharchmo Ramdung	6,282m 6,021m
ル	5,000m峰	なし	なし	なし		なし	
ジュ	8,000m峰	なし	なし	なし		なし	54
ガ	7,000m峰	なし	なし	なし		なし	
ール・ヒマール	6,000m峰	Dorje Lakpa6,990m Madiya Peak6,800m ∰Phurbi Chhyachu 6,658m	なし	なし		なし	
İ	5,000m峰	なし	なし	なし		なし	
	8,000加峰	なし	なし	なし		なし	
ランタン・ヒマール	7,000m峰	※Langtang Ri7,239m なし BigWhite Peak 7,083m		Lang tang Li	rung 7,246m	なし	
E	6,000m峰	Gyalzen Peak 6,705n	ı%Langshi sa Ri 6,300m	なし		なし	
i	5,000 <i>m</i> 峰	なし	なし	なし	Ga	PaldorPeak	22,50
ガ	8,000m峰	なし	なし	なし		tc 1	
ネッヒッフュー	7,000m峰	なし	Ganesh Himal I 7,400 "	SmGanesh Hima Sm "	l ∏ 7,150 ₇	n. Iなし	
・ル	6,000m峰	なし	なし	Ganesh Hima	1V 6.950n	なし	
	5,000m峰	なし	なし	なし		なし	
7	8,000加峰	なし	なし	なし		なし	
スリンヒ	7,000m峰	Chamar 7,177m	なし	なし		なし	
+7	6,000m峰	なし	なし	なし		なし	
ル	5,000m峰	なし	なし	なし		なし	
	8,000m峰	なし	なし		8156m	なし	
ゴルカ・ヒマール	7,000m峰	なし	なし	Himalchuli	7,540m 7,514m North 7,371m	なし	
				ManasuluNor	th 7,157,	n	

地域	高度区分	合同隊のみに許可される峰(A)	合同隊によって登頂された(B) 後に外国隊に許可される峰(B)	外国隊に許可される峰(C)	トレッキング許可の峰(D)
	6,000m峰	なし	なし	Baudha 6,672m	なし
	5,000m峰	なし	なし		なし
٤	8,000加峰	なし	なし	なし	なし
ムルヒ	7,000加峰	なし	%Himlung Himl 7126m	Kanguru 7,010m	なし
・1	6,000m峰	なし	%CheoHimal 6,812m	なし	なし
ル	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
	7,000加峰	なし	なし	なし	なし
マナン地 区	6,000m峰	なし	なし	なし	ChuluWest 6,630m " East 6,200m Pisang 6,091m
100000	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
ダエ	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
ダモダーレマ	7,000加峰	なし	なし	なし	なし
1	6,000m峰	%Bhrikuti 6,720m	なし	なし	なし
ル	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
	8,000m峰	なし	なし	Annapurna I 8,091m	なし
アンナプルナ・ヒマール	7,0 0 0m峰	なし	なし	Annapurna II 7973m Fang 7,647m Annapurna III 7,555m " IV 7,525m Gangapurna 7,454m Annapurna South 7,200m Glacier Dome7,193m Tilicho 7,132m NilgiriNoth 7,061m	なし
	6,000m峰	なし	なし	Lamjug Himal6,986m Nilgiri Central 6,940m "South6,839m	Hiun chuli 6,337m
	5,000m峰	なし	なし	なし	Marai Himal 5,555m Tent Peak 5,500m
par	8,000加峰	なし	なし	Dhaulagiri [8,167m	なし
ダウラギリ・ヒマール	7,000m峰	Gurza Himal 7,193m	なし	Dhaulagiri	なし n

地域	高度区分	合同隊のみに許可される峰(A)	合同隊によって登頂された 後に外国隊に許可される峰(B)	外国隊に許可される峰(C)	トレッキング許可の峰(D
	6,000 <i>m</i> 峰	なし	なし	Tukuche Peak6,920m Sita Chuchura 6,611n Manapati Hima 1 6,380 Dhampas 6,012 m	73 L 0m
	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
ムクト・	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
	7,000m峰	なし	なし	なし	なし
ヒマー	6,000m锋	なし	なし	Hongde 6556m	なし
ル	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
	7,000m峰	なし	なし	なし	なし
カンジロバ・ヒマール	6,000m峰	なし	なし	Sisne Himal 6,945m Kanjiroba 6,882 m Patrasi 6,860m Kande Hiunchuli なし 6,627m Kanjeralwa 6,612m ※Hanging Glacier Peak 6,500m ※Junction Peak 6,13	なし
	5,000m峰	なし	なし	Kagmara 5,960m Jagdula 5,785m	なし
サイパル・	8,000加峰	なし	なし	なし	なし
ルヒ	7,000m峰	なし	なし	Saipal 7,031m	なし
. 7	6,000m峰	なし	なし	なし	なし
	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
ゴラカ	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
カン	7,000m峰	なし	なし	なし	なし
・ヒマール		%Changla 6,715m	なし	なし	なし
	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
チャンディ・ル	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
デヒ	7000m峰	なし	なし	なし	なし
•]	6,000m峰	¾Na lakankar 6,935m	なし	なし	なし
	5,000m峰	なし	なし	なし	なし
ハヤ	8,000m峰	なし	なし	なし	なし
スリマ	7,000m峰	なし	なし	Api 7,132m	なし
バヤスリキッシュ・	6,000m峰	なし	Jeti Bahurani 6,849		なし
	5,000m峰	なし	なし	なし なし	なし

花を求めて(13)

水野 勉

今回もまた脇道へそれるが、了承していただき たい。

今年のヒマラヤ、中央アジアの高峰登山に対す る日本人の成果を少し考えてみたい。今年の前半 の計画では三つのビッグ・クライムがあった。H JAによるカンチ縦走、明大によるエヴェレスト、 早大によるK2西稜など、文字どおり、世界最高 の三巨峰に対するアタックであった。結果は、残 念ながらHAJのカンチと明大のエヴェレストは 失敗だった。日本隊には運がないのかと思ってい たら、早大のK2が成功したので、ややほっとし た。特にK2西稜は多くの外国隊が失敗していて、 すぐ前にもフランス隊が成功していなかっ たから、よく成功したものである。ヒマラヤでも、 今年前半では最大の成果といっていいだろう。も ちろん、日本隊ばかりでなく、世界全体の隊の成 果から考えてである。詳しい内容がそのうち知ら されるであろう。 K 2 といえば、中国側の登山が 許可になって、さっそく日本山岳協会もアタック するといううわさであるが、どうなるか。

三つのビッグ・クライムを除くと、今年前半で目立ったのは、中国領内の登山であろう。ミニヤ・コンガ、シシャ・バンマ、アムネ・マチン、クングール、クングル・チュビュ、ムスターグ・アタ、ボゴダなど、それほどはなばなしいものはないにしても、新しい地域の登山だけに、多くの人の目を引いたと思う。この登山のいくつかについては、ぼく自身間接的に関わっているので、なおさら関心があった。しかしながら、中国の山々に対する登山では、日本隊はたいへん不運だった。ミニヤ・コンガの大量遭難、ボゴダの遭難、クングールの行方不明など、どうもついていないとい

う感じである。また、クングールにしても、初登 頂がボニントン卒いる英国隊にやられてしまった ので特にそう思える。

ただ、クングールの京都カラコルム・クラブにしても、ボゴダのJACにしても、学術隊をともなっているので、その方面の成果が期待される。とにかく、はじめての中国山岳地域への学術調査であるので、関心が持たれる。

ヒマラヤ地域では、ザンスカル、ムスタンなどへの遠征が新しいものとして目を引いたが、HAJのムスタンはやはり許可されず、中止になったのは、やむを得ないとはいえ、残念であった。ザンスカルについては、ある程度の成果は得られたが、旅行としてはともかく、学術的調査となるとどうであろうか。

また、ヒマラヤ地域と限らず、今年の前半ほど 登山者の遭難が多かったときはないように思う。 アルプス、アラスカ、中国、ヒマラヤと外国での 登山でかくも続々と遭難し、死亡していくと、い ささかあわてざるを得ない。まして、ヒマラヤに おいては、許可されない山への登山がひそかにお となわれていたなどと新聞でかかれると、いった い、日本人はどうなっているのかと思いたくなる。 さて、話を元へ戻そう。ウィルソンの花を求め ての旅行の話である。

1918年に、かれはふたたび日本を訪れた。スズキ氏はかれを九州の久留米市へ連れていった。ことは久留米ツツジの本場であった。ウィルソンは書いている――「わたしは花の満開になっていることを期待して行ったが、数限りない、いろいろなデリケートな色をした花が、かたちのいい枝ぶりいっぱいに咲きみだれ、うっとりする美しさで

わたしを魅了した。それはわたしの期待をはるかに越えていた。その多くは20インチぐらいの丈の低い木に調整され、見事な形をしていた。まさに、日本の植木職人のねばり強さと腕前のすばらしさを表わしている。ウィルソンのいっているのは、盆栽のことであろうか。それとも庭の植込みであろうか。盆栽はサッキが普通だから、植込みの方だったかもしれない。クルメッツジは江戸時代末期、19世紀のはじめ頃につくられたとされている。

1917年には、ウィルソンは極東における最後の旅行をはじめた。まず沖縄諸島に立ち寄り、それから朝鮮へ行き、済州島などを訪れた。1917年の後半は朝鮮ですごし、そこから2、3のすばらしい植物をヨーロッパに紹介することができた。その中にはシャクナゲの一種も含まれていた。

1918年1月には台湾に行き、まず台湾スギを蒐集した。また、台湾の最高峰、玉山に登り、秋にはふただび植物採集に戻り、台湾の北東端にあるものすごい絶壁を越えた。それは海からまっすぐに切り立っていて、数千フィートをあるかに見えた。そこの気候や岩の状態のために、その岩壁の上部数千フィートには、岩の表面に、興味ある、豊富な植物がへばりつくように生育していた。この絶壁の上部をいく小径は、困難で、危険であったが、ウィルソンはここをとおった。ヨーロッパ人としては最初であろう。

スギ以外にも、ユリを何種類か紹介した。

1917年には、ウィルソンはアーノルド樹木園の 副園長になった。1920から1922年まで、オースト ラリア、南アフリカ、インドなどへの旅行をした。 1927年には、サージェント教授の死亡のため、そ の後継者として、アーノルド樹木園の園長になった。1930年10月15日、ウィルソン夫妻は自動車事 故のため、マサチューセッツのウェーセスター近 くで死亡した。

かれの死の直前数年間は、ウィルソンが新しい 品種を園芸界に紹介した功績などすべて、庭園関 係者も忘れがちだった。この植物採集という仕事 で、各個人の採集者のその功績にしたがって順位 をきめることなど不可能であるが、ウィルソンは その最高に位置すると思う。いくつかの点で、か れはハンディキャップを持っていた。ジェームズ ヴァィチ・アンド・サンズ園は、ウィルソンが中国へ出かけたとき、すでに衰退しつつあった。その役員たちは、中国でのよいものはすべて採集しつくされたというマリーズの考えを信じこんでいた。そのうえ、かれの紹介した植物が開花期にさしかかったとき、ちょうどクーム・ウッド園の苗のストックがオークションにかけられてしまった。それらの花々を普及する努力はいっさいされなかった。かれの植物の多く、たとえば、Rhododendron insigne や Staphylea holocarpa rosea などは、極度に見られなくなってしまった。

もし、園芸家たちがエキゾチックなものに目を向けるようになった第一次大戦後に、かれが採集していたら、かれの紹介した植物の多くは、現在よりもはるかにボビュラーなものになっていたであろう。かれの最良の仕事があまりに早くされすぎたのであった。じつに運が悪い話である。

ウィルソンはたしかに、その時代において、米国においてすぐれたものを普及しようと大いに力を尽した。アーノルド樹木園のやっていたすぐれた方法で、また、マサチューセッツ園芸協会での活動の中で、また、自分の著作をつうじて、良い花々の普及につとめたのだった。かれは多くの分野で書いた。技術上では「The Lilies of Eastern Asia」を書いた。「a Naturalist in Western china」はかれの主著であるが植物探検の本としては最重要なものの一つであり、なかなか入手がむずかしい。よみやすいし、平明な文体でかかれている。2冊本のぼう大なものであるが、キングドンウォードの本などよりもよみやすい。また、「Aristocrats of the Garden」という本をかき、

「Aristocrats of the Garden」という本をかき、一般のアメリカの園芸家のためにわかりやすく植物を紹介したが、このために「中国の」ウィルソンというニックネームがついた。口には出さなかったが、かれはそれをきらっていた。また、講演もうまかった。かれはいつも正確であることを心がけ、自分の気分がどうであれ、けっして、まちがった発言をしないようにつとめたし、また、まちがいもしなかった。

心舞う 聖なる地の山

HAJの名物女性と云える(?) 上州女・安中秀子さんが隊長になり、全隊員が本会々員でもある女子雪氷クラブの登山隊によるインド・ガンゴトリ山群のバギラティⅡ峰の報告書である。

私は最近特に山の本の読み方が変って来ている。 最初に「まえがき」・「あとがき」や「編集後記」 を読み、それから本文に入る。しかし実登山の部 分や特に装備・食糧などの担当報告なるものはあ まり読まない。面白くないからである。それより は参加した人達の「生」の声を聞いたり、読んだ りしたいを強く思う。

女性だけの登山隊は昔からあるにしてもパーセンテージは非常に少ない。それも東京でない「群馬」という地域でのそれはチーム編成に始まり、実登山まで困難がつきまとう。このことの苦労は当然安中隊長の文の随所に表われている。女性登山者の絶対数の少なさ、意識と技術のレベル等々女ならではの難しさが考えられよう。

本協会の稲田専務理事による序文にもあるように安中さんの準備期間中の執拗さと用意周到さは大変なものであった。心配症なのか完璧主義なのか?とにかくその勉強熱心さには驚かされる。にわか信仰でなく、その熱心さ故に「大禍なく」登山を終了させることが出来たのであろう。

この登山のトレーニング中にケガをし参加を断念 した小暮嬢の口惜しさや初めてバスボートを持ち、 インドという尋常でない外国での初めてのヒマラ ヤ登山という大きな期待と不安が殆んどの隊員の エッセイ他に書かれる。

その不安故か体力不足か順応の失敗か高所反応 の症状が非常に多く気になった。症状の出なかっ たのは安中隊長のみと聞く。

群馬女子ガンゴトリ登山隊

本隊のB・C入りは成田を出た翌日にデリーに着き、その日のうちにキャラバン開始となり、日本を出てB・Cへはストレートの7日目である。未経験者の時間制限つきの登山は難しさが供なう。同時期に同高度にB・Cを作ったHAJのケダルナート隊は尾形隊長のもと、B・Cの1日手前のボジュバサで1泊し、B・Cへの順応ピストンを行っている。その効果あってか20名中3~4名であり、症状もバギラティ隊よりも軽かったという。

書評と大分遠くなってきたが、あまりにも多い 呕吐等の高所反応の記述が気になるが故の戦略面 に対しての昔言としたい。

時間的制約があり、未経験あるいは経験の少ない人達による速攻登山。特にインドのように車利用アプローチの登山の危険な落し穴が潜んでいると云えよう。

目標が決まらない 1977年秋、今回も副隊長を務め、一緒に登頂した浅野さんと共にネパールへ向った安中さんはその旅でヒマラヤの巨峰を眼前に見るトレッキングをした。

旅を終えた時に「生きて行く過程で一番こわいことは自分で自分の可能性を限定してしまうことである」として「何かをしようとする時、大切なのは先ずあきらめないこと。欲しい物1つを手に入れた今感じている」と云い「これで終りだとは思っていない」(群馬岳連報・嶺呂より)彼女がバギラティ II 峰の頂上を手に入れた今、今度は何を欲しがるのだろうか?楽しみに見守っていたい。

B 5 版 107 頁 昭和 56年 7月 1日群馬ガンゴ トリ登山隊刊 1800円。

H.C.サリーン氏歓迎会





▲ 仙台(8/23)



▼ 東京(8/28)



▼ 札幌(8/24)





ヒマラヤ登山の専門家

SITA

並ぶものない山岳サービス

- ★ インド政府許可証
- ★通関手続
- ★ 交 通 機 関
- ★ポーター
- ★ ハイポーター
- ★ デラックス食料賄()
- ★ テント宿泊用具
- ★ マウンテンガイド

SITA WORLD TRAVEL (INDIA) PVT. LTD.

F-12, Connaught Place, New Delhi-110001, India Cable: SITATUR Phone: 45961 Telex: 2823

日本代表

ファー イースト エンタープライゼス

HAJ・カンチェンジュンガ報告会

今年プレモンスーン期に、ネパールヒマラヤのカンチェンジュンガ主峰(8,598 m) とヤルンカン (8,505 m)で行った縦走登山の報告会を下記のとおり行います。

記

日 時 9月30日(水) PM~7:00~9:00

場 所 東京都勤労福祉会館

会 費 500円 (報告書代含む・当日会場払)

定 員 80名

申 込 電話か葉書でHAJ事務局へ 〒160 新宿区高田馬場 3-23-1淀橋 食糧ビル 506 号

内 容 登山報告 隊員と8%フィルム

ヒマラヤの発送について

ヒマラヤの発送につきましては前金が切れている場合にも発送しておりますが、先般の郵便料金の値上りにより会の財政負担も非常に大きなものとなっています。従いまして今後「前金切れ」につきましては3ヶ月間(4月号~6月号)ヒマラヤ発送の封筒に前金切れの表示をした後も入金なき場合は、ヒマラヤの発送を一時とり止め、入金あり次第再発送する扱いにさせていただきます。ご了承下さい。

転居届の提出を!!

住所を変更された場合は、HAJ事務局へお知らせいただくと共に、最寄りの郵便局に備えてある転居届用紙や葉書にて、郵便局へ必ず転居届を提出して下さい。(届はポストに入れるなり郵便局へ持参すれば良い)届出の日から1年間、旧住所あての郵便物も新住所へ転送されます。



UNITED TRAVEL SERVICE(P)Ltd.

■インドヒマラヤ全域のアレンジをすべて日本語 でひきうけています。本社にも東京事務所にも日 本語に規能なスタッフが多勢おります。

■許可取得から通関、隊荷輸送、ポーターアレン

ジまで、遠征・トレッキングのすべてを取り扱っ ております。

■詳細は東京事務所のサニーまでお問合せ下さい。 もちろん日本語で!!

東京事務所

〒141 東京都品川区西五反田 2 -23-11-202 電話 03-493 -4920

本社(デリー)

802 Nirmal Tower, 26 Barakhamba Road, New Delhi India

Phone: 46107,42804,43984, Telex: ND3174 Cable : YOKOSO

1982年ヒマラヤ登山学校隊員募集

-ク ン (7,077m)⊢

1980年登山学校は、20名中19名がケダルナ ート・ドーム(6,831m)に登頂するという成果を あげて帰国しました(本誌109号既報)。隊員の 中にはすでにヒヤラヤ、アンデス、アラスカ等に おける高所登山経験者から、国内の冬山すら未経 験という人にいたるまで幅広い層が参加していま した。HAJでは経験豊富なインストラクターの もとに、正しいセオリーにのっとった安全確実な 高所登山を指導しております。隊員はすべて、装 備・食糧・梱包・輸送・渉外等の具体的な準備実 務にも参画していただき、また国内での強化合宿 も行なうなど、ヒマラヤ遠征全般について体得す ることができます。次回には自ら遠征を行なえる 人材を養成することが、この登山学校の主眼とな っております。実際に、卒業生の中には自ら隊長 となって隊を組織し、成功をおさめて帰ってくる 意欲的な人もでてきております。

1982年度はカシミール・ヒマラヤの秀峰クン (7,077m)にて実施する予定でおります。ふるっ て御参加下さい。

実施要項

目 的 ①クン(7,077m)登頂 ②高所登山の基礎修得

時期 1982年7月末~8月末

負担金 69万円(航空運賃の変動等により変る こともあります)

定 員 20名(申込順) インストラクター4名(医師含む)

申込み 1981年11月末までに下記宛に申込むこ と(資料を送ります) 〒160 東京都新宿区高田馬場 3-23-1

淀橋食糧ビル506 日本ヒマラヤ協会

この登山隊の旅行手続は、㈱西遊旅行が担当します。旅行業代理店業1976号



全世界のネットワーク

AFIA ホーム 保険会社

海外山岳保険

取扱代理店

郷インシュランス・コンサルタント [ホーム保険会社代理店]

〒100 千代田区丸ノ内3-1-11 国際ビル8F

TEL. 03-281-2981

談所 相 ホーム保険会社首都圏支店

〒100 千代田区丸ノ内3-1-1 国際ビル8F

TEL. 03-211-4401

担当: 寄木康男

▶ヒマラヤ諸国はおろか、ヨーロッパ、アラスカニュージランドと 今年ほど日本人が全世界の山岳で事故を起したのは始めてである。事故が起きると「規制」という解決策に頼り勝ちになるが、現象だけを見ずに、その根底となる日本での登山の在り方にも注意を向ける必要がありそうだ。

▶ I・M・F総裁のサリーン氏の来日と台風 15号の関東上陸が重なって、関係者はキリキリ舞いをさせられた。特に翌23日の仙台行は、空も列車も全面ストップという最悪の状態の中で、車を乗り継いでの強行軍となったが、それでも仙台入りを果して、遠来の参加者にサリーン氏との場が持てたことで、関係者一同ペホッ″とした。

▶事務局は現在、増加する一方の業務にスタッフが追いつかずパンク寸前である。特に「ヒマラヤ」の編集が大変である。東京近辺で興味のある方は 是非助けていただきたい。 (山森)

事務局日誌(8月)

1日(土) カンチェンジュンガ報告書発刊

8日(土) 登山学校委員会開催(福島·山倉、稲田 小島、尾形、伊東)

11日(水) ヒマラヤ118号発送

17日(月) ランタン・リ壮行会(長井) 開催

22 日(土) H•C•サリーン氏来日

23日日 第12回日本ヒマラヤ会議 (仙台) 開催

25日(火) H• C•サリーン氏歓迎レセプション

ヒマラヤNo.119 連載(10月号)

昭和56年9月10日印刷 56年10月1日発行

発 行 人 柴 田 金之助

編集人山森欣一

発 行 所 日本ヒマラヤ協会

〒160 東京都新宿区高田馬場 3-23-1 淀橋食糧ビル 506 号



シカール・トラベルが魅惑のインド・ヒマラヤⁿ

シッキム・ブータン・ガールワール・クマオン クル・マナリ・ラダック・ネパール・・・・ へのトレッキングや登山を計画されている日本の皆さん! 当、シカール・トラベルは、通関・隊荷輸送からガイド、 ポーター、ポニーのアレンジなどすべてのご用命を承ります。



CAPT SWADESH KUMAR (MANAGING DIRECTOR)



TRAVELS PRIVATE LIMITED

1,701, Nirmal towers,

26 barakhamba road new delhi-110001

tel. 42555, 42666 telex 031-4364 SHIK IN Cable SHIKHE

Branch office: Gangtok

Camp office: Joshimath & Uttarkashi



ヒマラヤを歩き、 そして登るために

第4回、第5回東日本ヒマラヤ 研究会報告。ネパール、インド の情報や高所登山論収録。

> 1975.11 B 5 274 P 2.400[I] 〒 400[I]

The Himalayan Association of Japan

日本ヒマラヤ協会 出版物案内(HAJ)

問い合わせ:HAJ事務局 発売元:〒102 東京都千代田区 九段北 1-6-7

(㈱地方・小出版流通センター 直納店:茗渓堂(お茶の水) 紀伊國屋(新宿)

ICI・石井スポーツ(新大久保) カモシカスポーツ(高田馬場)

シェルパの履歴書

ネパールのシェルパで活動している者ほとんど全員をリストアップした。顔写真、登山歴、評価、文献など。インド・ヒマラヤのシェルパも一部含む。

1977. 3 B 5 198 P 2,400円 〒 400円

中央アジア シルクロード (新版ガイド)

天山の麓の街, チベット, アフ ガニスタンやパキスタンの奥地, イランやトルコの山々, そして, シルクロード車の旅などロマン をさそうガイド。

> 1977.5 B 6 167 P 1,600円 〒 250円



インドヒマラヤ のすべて

インド登山の手続や, インド登 山隊の記録, サセルカンリ研究, シッキム研究などインド・ヒマ ラヤのことがいっぱい

> 1976. 11. 10 B 5 160 P 2, 400円 〒300円

カンジェラルワ 初 登 頂

1973年, 西ネパールのカンジロ バヒマールに遠征した遠征隊の 記録。写真, カット多数。

> 1976.10.10 B 5 173 P 1.600円 〒400円

カシミールの盟主 ヌン7135m

1975年、当時未踏のヌン北 稜に挑んだHAJ登山隊の報 告書。写真多数、上製本。

1978.4.1 B 5 111 P 3,500円 〒

トリスル28日間

1 9 7 8 TRISUL 7120m

78年ポストモンスーン、ガルワールのトリスルに遠征し I峰、II峰、無名峰の3座の 登項に成功した際の記録。

1979.2 B 5 143 P上製本 3,000円 〒 400円

月刊誌「ヒマラヤ」

ヒマラヤ,シクルロード,ビルマ,チベットなどの情報がいっぱい。毎月1回1日発行500円〒45円 年間講読料6,000円

日本ヒマラヤ協会々員には無料 配布。

日本ヒマラヤ協会年報 HIMALAYA 1980

バツーラⅡ (1978年)、キャシー・ドラル(1979年) 日本人のヒマラヤ登山と事故、ダンビルの地図帳等を収録。

> 1981.1 A 5 156 P 2,000円 〒 300円

合本ヒマラヤ 月刊ヒマラヤの合本

20号~40号、41号~60号 61号~80号、81号~100号

各巻共 8,000円 〒 500円

ヒマラヤへの装備



総 【C【「万井スポーツ



- 新宿登山本店 / 〒160東京都新宿区百人町 2 2 3 ☎03 (208) 6601代)
- 新宿西口店 / 〒160東京都新宿区西新宿 1 -16-7 ☎03 (346) 0301
- 水道橋ハードギアショップ / 〒101東京都千代田区三崎町 2 8 14☎03 (264) 5575
- 水道橋ソフトウェアショップ / 〒101東京都千代田区三崎町 2 8 6 ☎03 (264) 8901
- 大宮店 / 〒330埼玉県大宮市宮町 2 -123☎0486 (41) 5707
- 高崎店 / 〒370群馬県高崎市新町105☎0273 (27) 2397
- ●ICI通販部/〒160東京都新宿区大久保2-19-10東和ビル内☎03(200)7219